第２回
日向市上下水道料金等審議会

【次第】

１．開会
２．説明
３．今後の進め方
４．施設見学
５．その他

本日の説明

- 前回のふりかえり
- 理念の再確認

前回のふりかえり

市の状況

【下水道を取り巻く課題】
・人口減少に伴う使用料収入の減少
・施設の老朽化による大量更新時期の到来
・耐震化、耐津波化の推進
【今後の取組】
・民間活力導入の検討
・更新時における施設・設備のダウンサイジングの検討
・下水道使用料の適正水準の検討

【一般会計からの繰入金】
・雨水公費、汚水私費の原則がある中、基準外となる繰入金の増加傾向（独立採算との乖離）

その他

・合併処理浄化槽との費用負担比較

国の動向

【下水道使用料の目標値】
・経費回収率が100%を下回っている事業については、使用料単価150円/㎥（家庭使用料3,000円/20㎥）を目指そう。※税抜き
⇒日向市のR4決算　経費回収率92.16%
使用料単価127.2円/㎥
汚水処理原価138.0円/㎥
※使用料単価、汚水処理原価県内各市最低値

【経営戦略の改定】
・経費回収率等の改善目標や時期を設定し、より実効性の高い内容に改定する。
⇒R7年度からの国庫補助の交付要件

理念の共有

●公営企業の独立採算制の原則に立ち帰ったあるべき事業経営
●世代間、地域間の費用負担公平性の確保

いただいたご意見・ご質問

汚水処理原価が各市の比較でも
一番低いのは何か特徴的なところ
があるのだろうか？

⇒「日向市の特徴」の分析・説明

収入が減っていきながらの施設の
更新や耐震化を進めるにあたって、
使用料で全部賄うのか、一般会計
繰入金でどこまで負担するのかな
ど、どのように想定しているのか気
になるところ・・

⇒「下水道事業会計のしくみ」の説明

経費回収率はいつから100%を下
回るようになったのだろうか？
以前にもっと早く手を打つ時期が
あったのではないか？

⇒「これまでの経営状況」の説明

使用料改定は避けられないの
かもしれないが、社会情勢、市民影
響を十分に考えてほしい。
丁寧な説明も必要。

理念が分かりづらい言葉になって
いないか？
分かりやすく、例を加えるなど補足
が必要では？

⇒理念の分かりやすい補足を追加

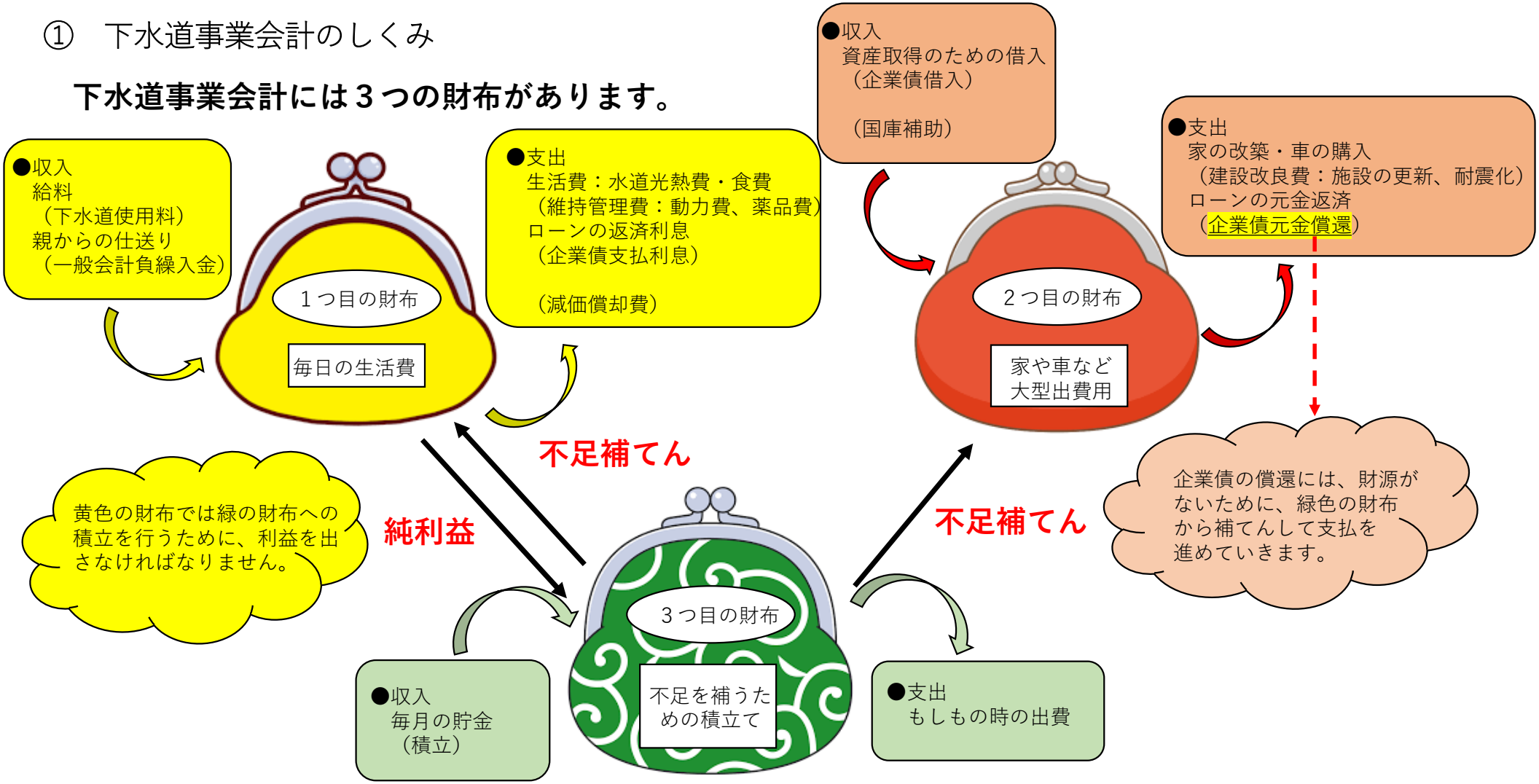
ご意見・ご質問に対する説明

① 下水道事業会計のしくみ
② 汚水処理費に関する日向市の特徴
③ これまでの経営状況
④ 理念の再確認

①　下水道事業会計のしくみ

①　下水道事業会計のしくみ

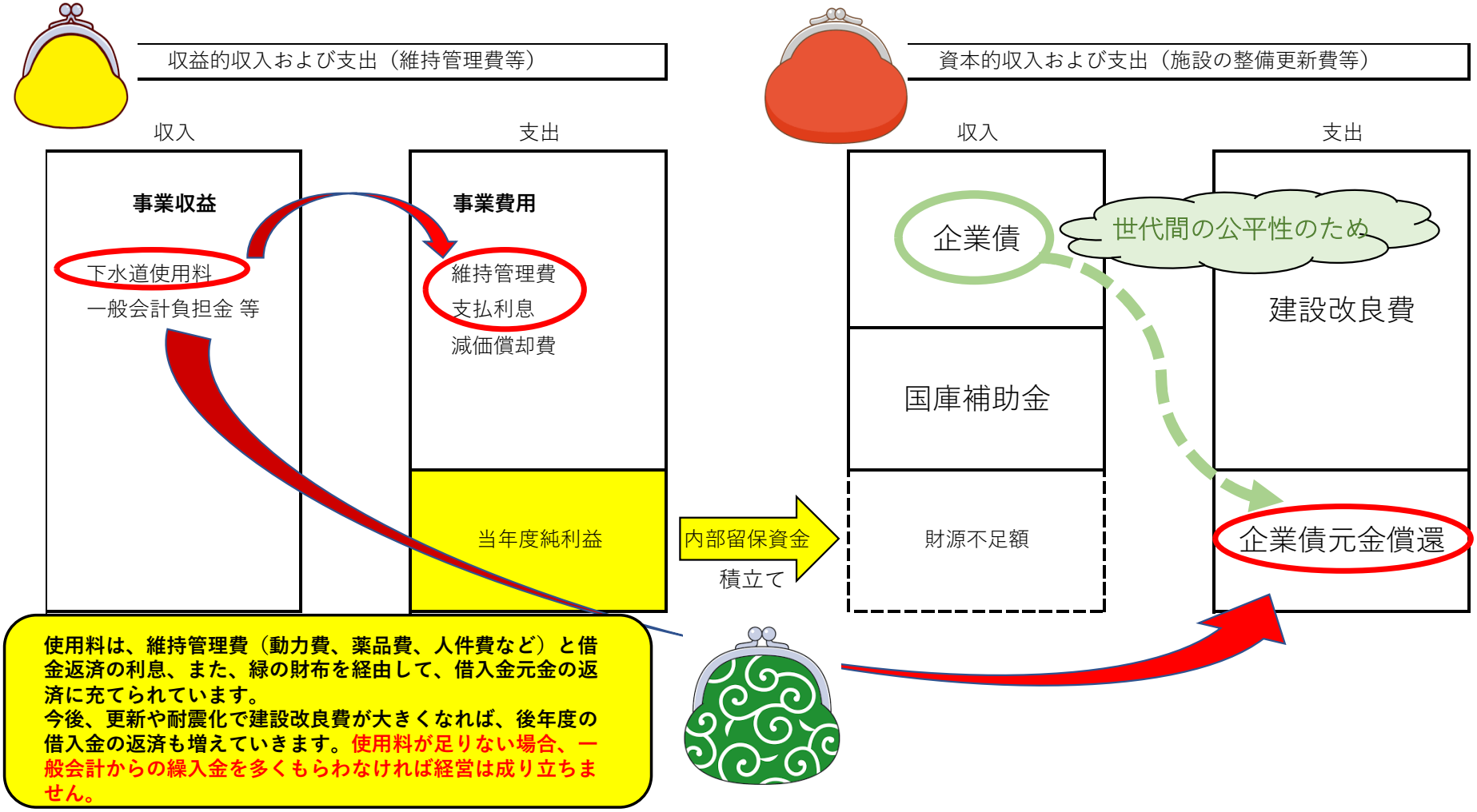
下水道事業会計には３つの財布があります。



①　下水道事業会計の仕組み

使用料は何に充てられている？

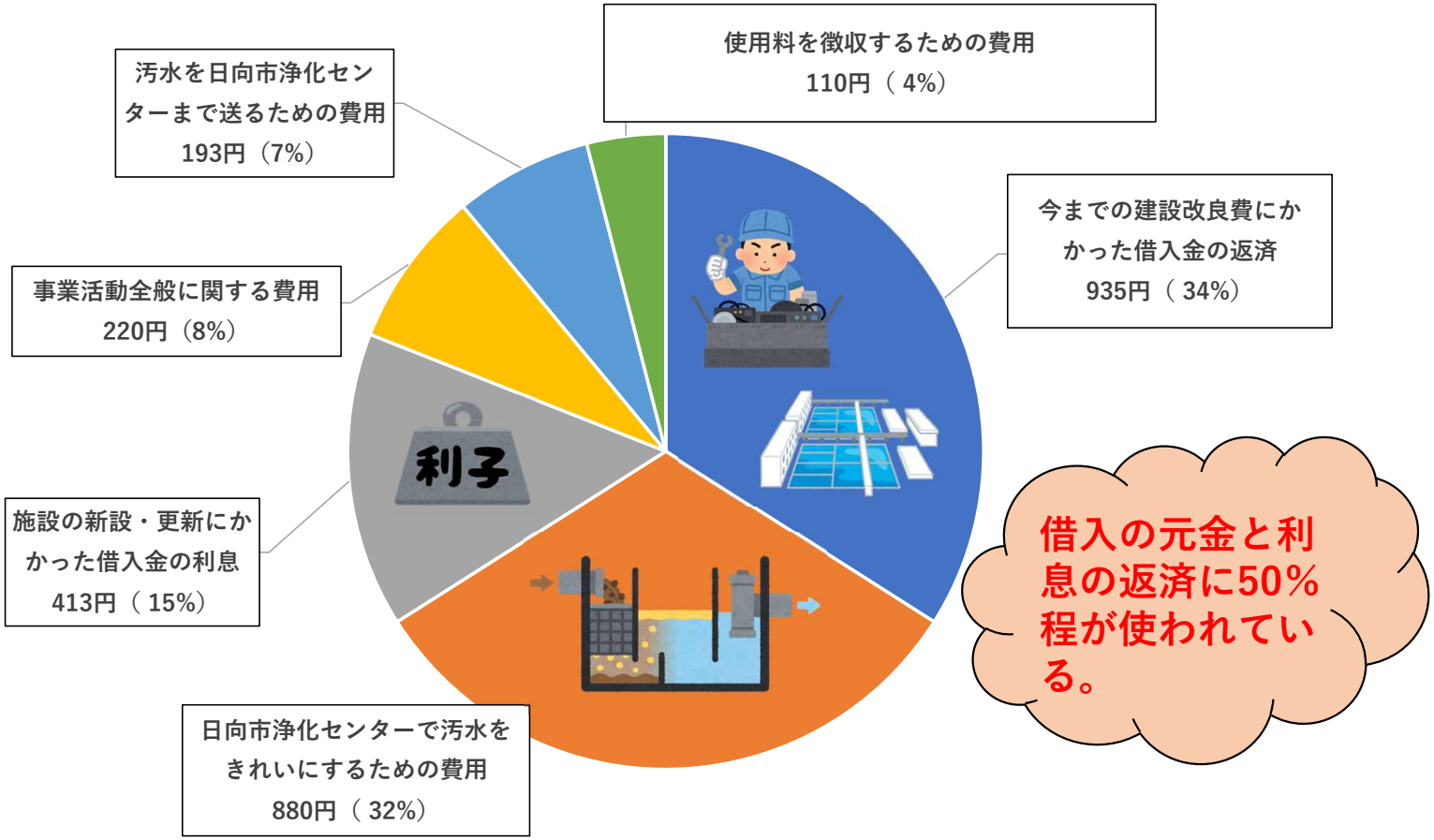
企業債はなぜ借りる？



使用料は、維持管理費（動力費、薬品費、人件費など）と借金返済の利息、また、緑の財布を経由して、借入金元金の返済に充てられています。
今後、更新や耐震化で建設改良費が大きくなれば、後年度の借入金の返済も増えていきます。使用料が足りない場合、一般会計からの繰入金を多くもらわなければ経営は成り立ちません。

①　下水道事業会計のしくみ

一般家庭想定の20㎥　2,750円の使い道（令和４年度決算）

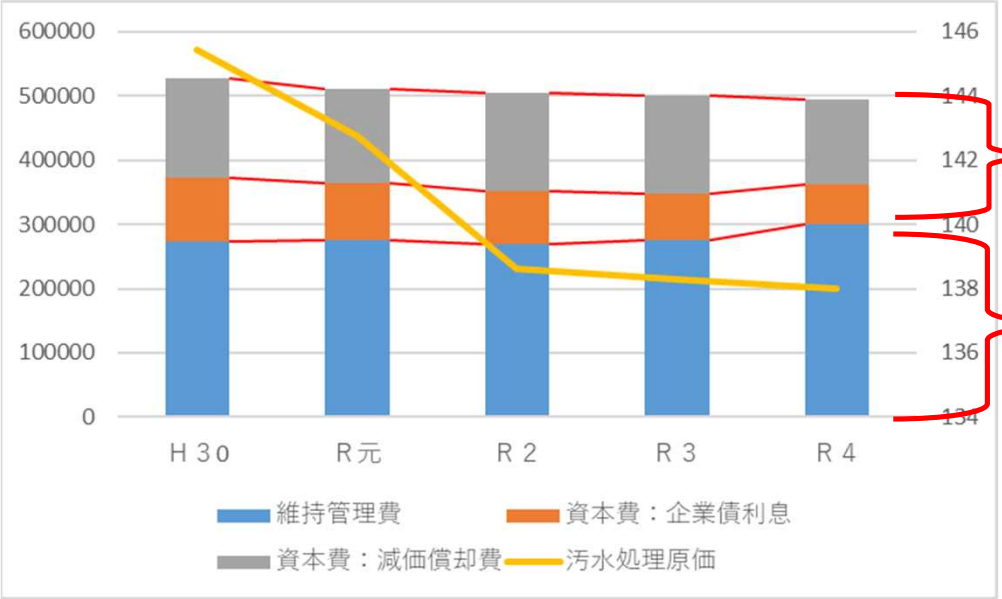


②　汚水処理費に関する日向市の特徴

②　汚水処理費に関する日向市の特徴

日向市汚水処理原価の推移　　（千円）

年度	Ｈ３０	Ｒ元	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
維持管理費	274,151	275,729	270,075	274,700	300,639
資本費：企業債利息	98,551	89,100	81,378	71,947	61,072
資本費：減価償却費	153,875	145,499	152,583	153,432	132,878
汚水処理費	526,577	510,328	504,036	500,079	494,589
有収水量	3,620,771	3,575,468	3,635,828	3,616,582	3,584,291
汚水処理原価	145.4	142.7	138.6	138.3	138.0



維持管理費の増加に対し、資本費の減少の方が大きいため、汚水処理費の合計は減少傾向にある。

・企業債償還が進んだことによる支払利息の減少
・施設の老朽化による減価償却費の減少

・物価高騰の影響を受けた動力費、薬品等の増　など

② 汚水処理費に関する日向市の特徴　　（県内８市の比較　令和４年度決算）

団体名	宮崎市	都城市	延岡市	小林市	日南市	西都市	串間市	日向市
維持管理費（千円）	2,640,722	595,505	629,387	133,792	212,811	148,080	43,820	300,639
資本費（千円）	2,774,057	504,063	787,888	26,878	42,663	133,677	0	193,950
汚水処理費（千円）	5,414,779	1,099,568	1,417,275	160,670	255,474	281,757	43,820	494,589
有収水量（㎥）	35,857,217	7,394,518	9,448,497	1,037,799	1,704,818	1,857,557	272,465	3,584,291
汚水処理原価（円/㎥）	151.0	148.7	150.0	154.8	149.9	151.7	160.8	138.0

団体名	宮崎市	都城市	延岡市	小林市	日南市	西都市	串間市	日向市
維持管理費（円/㎥）	73.6	80.5	66.6	128.9	124.8	79.7	160.8	83.9
資本費（円/㎥）	77.4	68.2	83.4	25.9	25.0	72.0	0.0	54.1

人口密度（人/ha）	46.8	30.9	44.2	27.8	34.0	24.7	29.8	40.1
施設利用率	69.17	53.09	58.63	48.62	43.35	55.37	49.0	70.72
有形固定資産減価償却率	40.52	21.72	38.89	9.12	50.89	17.05	-	28.24

維持管理費（円/㎥）について

１㎥あたりの処理にどれ程の処理費用がかかっているかの比較になるが、地形的な影響による施設の違いによっても差が生じてくる。

日向市の場合、人口密度も各市に比べると高い方であり、施設利用率も高くなっており、効率的な運営ができていると考える。

資本費（企業債利息・減価償却費）（円/㎥）について

各市によって、施設規模は異なるため、一概に良し悪しを判断することは困難であるが、日向市の場合、これまでの建設改良における事業の平準化により、企業債の償還に伴う利息が減少傾向にあることで、資本費全体も減少してきている。

効率的な維持管理と計画的な建設改良の推進により、汚水処理原価は低く保たれている。

③　これまでの経営状況

③　これまでの経営状況

年度	H26	H27	H28	H29	Ｈ３０	Ｒ元	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
維持管理費（千円）	264,614	271,942	278,881	283,054	274,151	275,729	270,075	274,700	300,639
資本費：企業債利息（千円）	134,947	124556	114,865	104,321	98,551	89,100	81,378	71,947	61,072
資本費：減価償却費（千円）	135,514	127918	135,786	130,482	153,875	145,499	152,583	153,432	132,878
資本費　小計（千円）	270,461	252,474	250,651	234,803	252,426	234,599	233,961	225,379	193,950
汚水処理費（千円）　A	535,075	524,416	529,532	517,857	526,577	510,328	504,036	500,079	494,589
有収水量（㎥）B	3,566,158	3,599,593	3,671,187	3,655,848	3,620,771	3,575,468	3,635,828	3,616,582	3,584,291
汚水処理原価（円/㎥）A／B（①）	150.0	145.7	144.2	141.7	145.4	142.7	138.6	138.3	138.0
使用料税抜き（千円）　C	443,324	448,446	456,648	456,531	454,073	450,604	457,568	457,655	455,832
使用料単価（円/㎥）　C／B（②）	124.3	124.6	124.4	124.9	125.4	126.0	125.8	126.5	127.2
経費回収率（%）　②/①	82.85%	85.51%	86.24%	88.16%	86.23%	88.30%	90.78%	91.52%	92.16%

平成26年４月に公営企業会計制度に切り替わり、経費回収率などの指標が算出されるようになり、将来の見通しについても分析できるようになった。

経費回収率　⇒　82.85%

まずは経営努力

- **設備の更新計画、新規整備の優先順位を整理し、長寿命化も含め、計画的な建設改良を実施することで、企業債借入が過大にならないように務めてきた。**
  ⇒企業債元利償還金の減少により、現金流出を抑制。
- **接続率向上のための、未接続世帯への戸別訪問**
  ⇒使用料収入の増加に向けて
- **高利率の企業債の繰上償還⇒借換え**
- **下水道区域縮小による将来の建設改良費の削減**

現行の使用料と一般会計繰入金により、経営状況を注視してきた時代。

理念の再確認にあたって
（今後の経営状況の見通し）

●使用料収入と一般会計繰入金の状況

収益的収支の実態（令和４年度決算）

内部留保資金としてストックし、企業債元金償還金に充てる

基準外繰出金が無いと利益が生まれていない

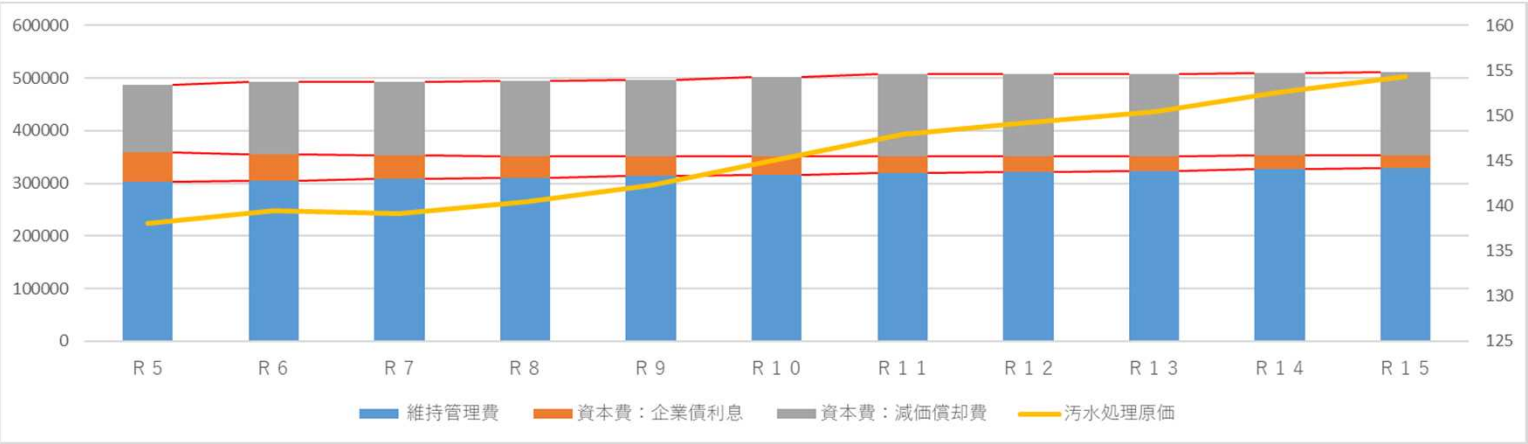
実質赤字

支出	維持管理費 317百万円		資本費 820百万円			
	管渠費・ポンプ場費・処理場費 317	支払利息 90	減価償却費等 730			
収入	使用料収入 456		長期前受金戻入 330	他 16	基準内 252	基準外 311
	使用料収入 456百万円		長期前受金 330百万円	他 16	一般会計繰入金 563百万円	

●今後の経営状況の見通し

汚水処理費（汚水処理原価）・経費回収率の推移

年度	R５	R６	R７	R８	R９	R１０	R１１	R１２	R１３	R１４	R１５
維持管理費（千円）	303,176	305,734	308,314	310,916	313,540	316,186	318,854	321,545	324,258	326,994	329,754
資本費：企業債利息（千円）	55,179	49,443	44,826	40,511	36,869	34,782	33,088	30,428	27,584	25,266	23,176
資本費：減価償却費（千円）	129,084	136,673	139,872	142,302	145,876	151,093	155,502	155,892	155,411	157,274	157,663
資本費　小計（千円）	184,263	186,116	184,698	182,813	182,745	185,876	188,591	186,319	182,994	182,540	180,839
汚水処理費（千円）　A	487,439	491,851	493,013	493,729	496,285	502,061	507,445	507,864	507,253	509,535	510,593
有収水量（㎥）B	3,530,816	3,526,642	3,543,337	3,515,609	3,487,594	3,459,302	3,430,743	3,401,926	3,370,848	3,339,529	3,307,977
汚水処理原価（円/㎥）A／B　(①)	138.1	139.5	139.1	140.4	142.3	145.1	147.9	149.3	150.5	152.6	154.4
使用料税抜き（千円）　C	451,723	447,287	449,406	445,889	442,336	438,748	435,126	431,471	427,529	423,557	419,555
使用料単価（円/㎥）　C／B　(②)	127.9	126.8	126.8	126.8	126.8	126.8	126.8	126.8	126.8	126.8	126.8
経費回収率（%）　②/①	92.67%	90.94%	91.16%	90.31%	89.13%	87.39%	85.75%	84.96%	84.28%	83.13%	82.17%



今後は、施設の更新、耐震化を進めていく中で、減価償却費は上昇していくことが見込まれます。

また、維持管理費についても、今後も価格高騰の影響を受ける可能性があり、ゆるかな上昇を想定しています。

一方事業完了も間近であり、新たな下水道接続は少なくなり、有収水量の減少は避けられないと考えており、汚水処理原価は上昇に転じていくことが想定されます。

● 事業経営のこれまで

下水道事業運営のこれまで

●事業区域拡大に伴う有収水量の増加

・使用料収入の増加、施設の効率的利用

●企業債償還の進行に伴う支払利息の減少等により、汚水処理原価は徐々に減少（改善）してきた。

⇒現行の下水道使用料により経営を注視してきた時代

● 事業経営のこれから

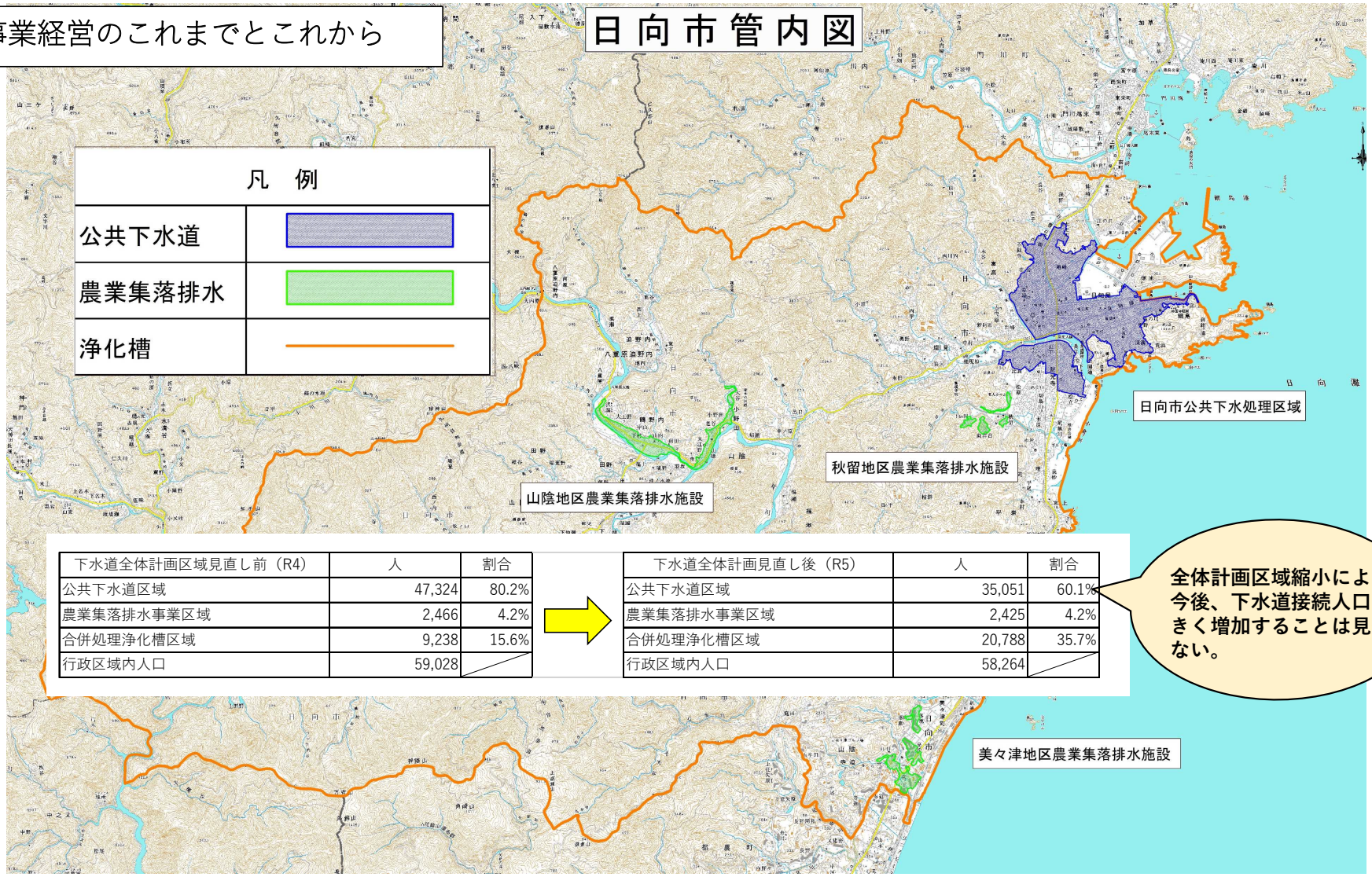
下水道事業運営のこれから

●事業区域の完了により、人口減少による有収水量の減少は避けられない。
⇒使用料収入減

●今後の施設・設備の更新、耐震化の推進により汚水処理費は上昇していくことが見込まれる。
⇒維持管理費、減価償却費の増

●全体計画区域縮小により合併処理浄化槽区域の確定による地域間のバランスの再考。
⇒下水道・農集排・合併処理浄化槽区域の維持管理費の公平化

③　事業経営のこれまでとこれから



下水道全体計画区域見直し前（R4）	人	割合
公共下水道区域	47,324	80.2%
農業集落排水事業区域	2,466	4.2%
合併処理浄化槽区域	9,238	15.6%
行政区域内人口	59,028	

下水道全体計画見直し後（R5）	人	割合
公共下水道区域	35,051	60.1%
農業集落排水事業区域	2,425	4.2%
合併処理浄化槽区域	20,788	35.7%
行政区域内人口	58,264	

全体計画区域縮小により今後、下水道接続人口が大きく増加することは見込めない。

④　理念の再確認

審議会として目指す方向性（理念）

●公営企業の独立採算制の原則に立ちかえったあるべき費用負担

（独立採算とは？）

・親（一般会計）からの仕送り（一般会計基準外繰入金）を当てにせず、自分の生活を見つめ直そう。

⇒経費の節約と、収入増加の検討。

●世代間、地域間の費用負担公平性の確保

（世代間の公平性とは？）

・子供も、孫も、自分も使うこの大きな家は、ローンを活用して、平等に負担していこう。

（地域間の公平性とは？）

・日向のどこに住んでも同じサービスを受け、同じ費用負担を目指していこう。

今後の進め方について

今後のスケジュール

第２回 （本日）	第３回～第４回 （８月～9月）	第５回（最終回） （10月予定）
・下水道事業の現状について （１回目のふりかえり） ・理念の再確認	・改定に向けたシミュレーションの提示⇒審議 ・答申書案の審議	・答申書の最終確認、提出